

農村計画学

2016年10月26日の出席票より

講義内容への質問(1):生活環境整備事業

- 総パなどいろいろな事業が重なった時期に行われていますが、これらは並行して各事業間で協力・調整して行われたのでしょうか。それとも全く独立して、ここがそれぞれ行われるというものだったのでしょうか。→事業単位で別々です。
- 整備事業の前後でどのような変化があったか、という実例があればより理解しやすい。→集会所は示しましたが、他もある方が良いでしょう。全体的評価を示します。
- メニュー型の事業で、過不足なく生活環境を整備することは出来るのか？→「過」はないですが、「不足」はあります。予算に限りがありますので。
- もしわかればいいのですが、提案型の意見(?)施策(?)を出すまでの思考プロセスが知りたいです。→後日、旭川のケースを。
- 一言に「生活環境を良くする」といっても、様々な指標があるなど思った。駅への行きやすさなどを考えがちですが、上下水道なども当然関係するな、と感じました。

講義内容への質問(2)個別事業

- 農業集落排水ではなく通常の下水道にしたとしても、コスト以外のデメリットがないように思われます。コストだけが問題なんでしょうか。→コストは十分に大きな要素です。
- 下水道整備と小規模分散方式とで、どの程度の規模から方式が切り替わるのか。→管理人配置など整備水準が違うので比較は難しいです。農業集落排水事業の規模は、概ね1,000人以下です。
- ゴミ焼却高速堆肥化率の低い小都市や農村は、どのようにゴミを処理しているのか気になった。昔ながらに畑に埋め肥料にするのか、等。→堆肥化は僅かです(第4回で話します)。畑での有効利用は、全世帯ではできません。

講義内容への質問(3)事業の意味・効果

- 幸福度・満足度を上げる政策が功を成しているか。近年、地域振興と称して様々な企業や団体がプロジェクトを行っているが、多くの地域の人々の目が向いているように感じない。内発的なものにするために重要なことは何でしょうか。私はやはり地方出身者あるいは地域の子供の力のように感じています。→地域の子供だけでなく地域の全員(なるべく多く)ではないでしょうか。出身者等はそれを支えてほしいですね。

講義内容への質問(4):生活圏

- 事例の図は面白い。もう少し掘り下げて調べてみたい。
→出典はちょっと待って下さい。
- 生活圏域の考え方が、定住自立圏の考え方と一定程度親和性のあるように思えたのですが、先生は定住自立圏構想についてどのようにお考えでしょうか。どこまでの機能を小規模集落に残しておくべきなのか。→構想には賛成です。市町村合併はその実施プロセスとも言えます。遠方の集落からは行政サービスが低下したと聞きます。トレードオフですので、市町村ごとに妥協点を探るしかないでしょうね。

講義方法への希望、コメント

- レポート課題についてテーマ、期限をスライドで掲載いただけるとありがたかった。→初回に渡したスケジュールに書いています。10/12の講義の最後にも、レポートのことは言いました。
- 今回のスライドのダウンロードが出来ませんでした。
- 休憩を入れていただきたいと感じました。
- スライドを授業前にアップして下さい。→暫定ですが、そうします。後日差し替えがあるかも知れません。

講義の感想ほか

- 農村が身近でない分、イメージが付きにくい部分もあるな、と単純に感じました。
- 集会施設が予算の都合上、数回にわたって建設されるというのが面白かった。数年予算を貯めて、一回で建設することはないのだろうか。→集会施設の例は、「別の予算」の例です。年度繰り延べは、農学部7号館です。
- 前回の質問を聞いていて、水田の景観としての美しさの要素にはどのようなものがあるのか考えてみたいと思った。